

研究課題名	<i>Streptococcus bovis</i> group 菌血症と併存疾患の関係
研究責任者名	広島大学病院感染症科 教授 大毛宏喜
研究期間	(倫理委員会承認後) ~2022年3月31日
対象者	2008年1月から2021年12月の間に、広島市立安佐市民病院において診療を受けた患者さんのうち、血液培養検査により <i>Streptococcus bovis</i> group が検出された患者さん。
意義・目的	<p>連鎖球菌(<i>Streptococcus</i> 属)の菌種のうち、<i>S. bovis</i> group に属する菌種は、様々な疾患と密接な関連があることが知られています。特に <i>S. gallolyticus</i> subsp. <i>gallolyticus</i> は、大腸癌や感染性心内膜炎と、また <i>S. gallolyticus</i> subsp. <i>pasteurianus</i> は、新生児や高齢者の髄膜炎との関連性が深いといわれています。このように血液培養検査より <i>S. bovis</i> group の菌種が検出された場合、菌種ごとに推測される疾患が異なるため、正確な菌種同定や亜種名決定が重要です。しかしながら、<i>S. bovis</i> group は、この20年で菌名の変更や分類学上の再編が行われてきた経緯があり、一般的に臨床検査室で行われている同定では、亜種レベルでの同定が困難な場合が多いです。</p> <p>そこで本研究は、広島大学病院、JA 広島総合病院、広島市立安佐市民病院において血液培養より分離された <i>S. bovis</i> group 株を遺伝子学的に再同定し、その菌種が分離された患者の臨床情報と同時に解析することで <i>S. bovis</i> 菌血症と消化器癌を含む特定の疾患の関連があるかどうかを検討する研究です。</p>
方法	<p>本研究は診療録(カルテ)情報を転記し、患者さんから培養された <i>Streptococcus bovis</i> group に対して遺伝子学的解析を行います。</p> <p>カルテから転記する内容は、年齢、性別、身長、体重、既往歴、内服歴、飲酒・喫煙歴、血液検査、培養同定検査、薬剤感受性検査、画像所見(CT, MRI, PET-CT, 内視鏡, エコー), 病理所見, 使用抗生剤, 併用治療法, 予後です。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	<p>広島大学病院, JA 広島総合病院</p> <p>主研究期間である広島大学病院に情報、菌株を集め解析します。</p>
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 感染症科 教授 大毛宏喜
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	<p>主研究機関</p> <p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3</p> <p>Tel : 082-257-1613</p>

研究責任者：広島大学病院 感染症科 教授 大毛宏喜

研究担当者：広島大学病院 感染症科 助教 北川浩樹

広島市立安佐市民病院

〒731-0293 広島市安佐北区可部南 2-1-1

Tel：082-815-5211(代)

研究担当者：外科 部長 加納幹浩